

1792年 (誕生)

2月29日、アドリア海に面したイタリアのペーザロでジョアキーノ・ロッシェニ生まれる(洗礼簿の記載はジョヴァンニ・アントーニオ・ロッシェニ)。父ジュゼッペ・アントーニオはルーゴの出身で1790年にペーザロへ移住、同市の軍楽隊と劇場の金管楽器奏者を務め、ペーザロのパン職人の娘アンナ・グイダリーニと1791年に結婚。

[フランスで王政廃止決議(第一共和政)。ヴェネツィアのフェニーチェ劇場開場。チマローザ《秘密の結婚》初演]

1793年 (1歳) ~ 1796年 (4歳)

ジョアキーノに関する記録なし。

1797年 (5歳)

2月にフランス軍がペーザロを占領する際、ジャコバン主義にかぶれた父ジュゼッペがこれに協力する。しかし、教皇軍がペーザロを解放したことからジュゼッペは反逆者として解雇される。12月21日深夜、彼は仲間と共に教皇軍と戦って市庁舎を占拠。共和制を宣してペーザロをチザルピーナ共和国に編入させる。

[シューベルト、ドニゼッティ生]

1798年 (6歳)

父ジュゼッペは興行師の仕事を始め、妻アンナを歌手に地方劇場で巡業生活に入る。その間ジョアキーノはペーザロの祖母と伯母のもとに残され、悪戯好きで元気のよい少年時代を送る一方、市楽団のリスターロ(不明。トライアングル奏者と推測)として賃金を支給される。

[ナポレオンのエジプト遠征。フランス軍のローマ占領]

1799年 (7歳)

ペーザロに教皇政府が復活。父ジュゼッペは9月にボローニャで逮捕され、ペーザロへ移送後、政治犯として投獄される。ジョアキーノは悪戯が原因で鍛冶屋に奉公へ出されるが、素行は改まらず家に帰される。

[ブリュメール18日。バルザック生]

1800年 (8歳)

7月、ペーザロを再制圧したフランス軍が政治犯を解放。10カ月の獄中生活から自由の身となったジュゼッペは家族を連れてボローニャに移住し、音楽生活に復帰した。ジョアキーノは、算数とラテン語、ジュゼッペ・プリネッティからスピネット、父にホルンを学ぶ。

[ナポレオンのイタリア再征とマレンゴの勝利]

1801年 (9歳)

この年の初め、ジョアキーノがファーノのフォルトゥーナ劇場管弦楽団でヴィオラを弾く。

[ナポレオンと教皇の政教協約]

1802年 (10歳)

一家は父の故郷ルーゴに移り、音楽への情熱が芽生える。教会音楽家ドン・ジュゼッペ・マレルピにチェンバロと歌、数字低音と作曲を学ぶ。母アンナはプリマ・ドンナとして地方劇場で活動を続ける。

[ユゴー生]

1804年 (12歳)

4月、ジョアキーノはボーイ・ソプラノとして母と一緒にイモラの劇場に出演。

[ナポレオンのフランス皇帝即位]

1805年 (13歳)

母アンナが喉を患って引退し、一家は再びボローニャに移住する。ジョアキーノはアンジェロ・テゼイ神父から歌とソルフェージュ、数字低音とチェンバロ伴奏を学ぶ。テアトロ・デル・コロソでパーエルの《カミッラ》アドルフオ役を歌い、絶賛される。

[ナポレオン、イタリア王となる。アウステルリッツの戦い]

1806年 (14歳)

4月14日、ボローニャの音楽学校(リチエーオ・フィラルモーニコ)に入学、チェロとピアノを学ぶ。6月には歌手としての才

能が認められ、同地の音楽アカデミー会員となる。マルケ、ローマニャなどの地方劇場で合唱指揮、レチタティーヴォのチェンバロ伴奏を務めて収入を得る。

[神聖ローマ帝国滅亡。ナポレオンによる大陸封鎖令。ベートーヴェン《交響曲第5番》作曲]

1807年 (15歳)

春にファエンツァの劇場でマエストロ・アル・チェンバロを務める。5月からスタニスラオ・マッテーイ神父の対位法、11月よりピアノのクラスに在籍。しかし、12月半ばから3ヶ月間を欠席。

[フィヒテ『ドイツ国民に告ぐ』刊]

1808年 (16歳)

コントラバスのクラスに在籍。ラヴェンナでアマチュアのコントラバス奏者アゴスティーノ・トリオッシと交際し、6曲の弦楽四重奏曲(《六つの四重奏ソナタ》)を作曲(註:従来の1804年から変更)。ボローニャとラヴェンナのためのミサ曲、カンタータ《オルフェーオの死によせるアルモニアの嘆き》を作曲。カンタータは8月11日に音楽学校で演奏され、対位法技能賞を受ける。

[フランス軍のローマ再占領]

1809年 (17歳)

フェッラーラとボローニャのコムナーレ劇場のマエストロ・アル・チェンバロを務め、パーエル、サルティ、チマローザのオペラ上演に参加。音楽学校では変ホ長調のシンフォニア(8月28日初演)や管弦楽用の変奏曲を作曲する。

[ナポレオンが教皇領とローマをフランスに併合。メンデルスゾーン生。ハイドン没]

1810年 (18歳)

ボローニャでマエストロ・アル・チェンバロとして二つのコンサートに出演(4月9日と5月25日)。《デメトリオとポリービオ》を習作(初演→1812年)ヴェネツィアのサン・モイゼ劇場興業師の依頼でデビュー作《結婚手形》を作曲、11月3日の初演で一定の成功を収める。

[ショパン、シューマン生。スコット『湖上の美人』刊]

1811年 (19歳)

5月にハイドン《四季》を音楽学校で指揮。秋にはボローニャのコロソ劇場でマエストロ・アル・チェンバロを務め、10月26日にテアトロ・コムナーレで《ひどい誤解》を初演。台本が問題とされ、3回上演で打ち切られる。11月にはオペラ指揮者も務めるが、稽古で合唱団員と喧嘩し、一時留置場に入れられる。《幸せな間違い》(翌年初演)、カンタータ《ディドーネの死》を作曲。

[イギリスでラッドライト暴動起こる]

1812年 (20歳)

1月8日、サン・モイゼ劇場で《幸せな間違い》を初演、成功を収める。3月14日にはフェッラーラのテアトロ・コムナーレで《バビロニアのチーロ》、5月9日、サン・モイゼ劇場で《絹のはしご》を初演。9月26日にはミラーノのスカラ座で《試金石》を初演して大成功を収め、兵役を免除される。11月24日、サン・モイゼ劇場で《なりゆき泥棒》初演(5月18日にローマで《デメトリオとポリービオ》が初演されたが、ロッシェニは関知せず)。

[ナポレオンのロシア遠征。その後モスクワから撤退]

1813年 (21歳)

1月31日サン・モイゼ劇場で《ブルスキーノ氏》を初演するが、劇場側とのトラブルのため1回で打ち切りとなる。2月6日にはヴェネツィアのフェニーチェ劇場で最初の傑作セーリア《タンクレーディ》を初演し、大成功を収める。続く《アルジェのイタリア女》(5月22日ヴェネツィアのサン・ベネデット劇場初演。大成功)との2作でロッシェニの名声はイタリア中に轟く。12月26日、ミラーノのスカラ座で《バルミラのアウレリアーノ》初演。

[諸国民解放戦争始まる。ヴェルディ、ヴァーグナー生]

[ヴェローナ（神聖同盟）会議。ホフマン没]

1814年（22歳）

8月14日、ミラーノのスカラ座で《イタリアのトルコ人》を初演。12月26日にフェニーチェ劇場で初演した《シジスモンド》も失敗。カンタータ《エウグレとイレネ》作曲。

[ナポレオン退位。ルイ18世即位。ウィーン会議開始]

1815年（23歳）

4月5日、フランス軍のボローニャ進駐を祝して作曲した《独立讃歌》を自身の指揮で初演（楽譜散失）するが、ほどなくオーストリア軍がボローニャを制圧。ナポリの王立劇場支配人ドメニコ・バルバーイアと契約を結んで活動の場をナポリへ移す。10月4日、ナポリ・デビュー作品《イングランド女王エリザベッタ》をサン・カルロ劇場で初演し、大成功を収める。続いて12月26日にローマのヴァッレ劇場で《トルヴァルドとドルリスカ》を初演。この年、カンタータ《アウローラ》作曲。

[ナポレオンの百日天下。全イタリアでの王政復古]

1816年（24歳）

2月20日、ローマのアルジェンティーナ劇場で《アルマヴィーヴァ、または無益な用心》（《セビーリヤの理髪師》）初演。初日は大失敗で2日目から大成功に転じる。4月24日、フォンド劇場で両シチーリア王フェルディナンド1世の王女とベリー公の結婚を祝して舞台音楽《テーティとペレオの結婚》を初演。9月26日、ナポリのフィオレンティーニ劇場で《新聞》、12月4日ナポリのフォンド劇場で《オテッロ》を初演。 [パイジエッロ没]

1817年（25歳）

1月25日、ローマのヴァッレ劇場で《ラ・チェネレントラ》初演。5月31日スカラ座で初演した《泥棒かささぎ》が大成功を収めたものの、11月11日サン・カルロ劇場初演の《アルミダ》は不成功に終わる。12月27日にはアルジェンティーナ劇場で《ブルグントのアデライデ》を初演して失敗。

[メユール、スタール夫人没]

1818年（26歳）

3月5日、サン・カルロ劇場で《エジプトのモゼ》を初演して大成功を収める。ボローニャに赴いてポルトガルの興行師の依頼で《アディーナ》を作曲（初演は1826年リスボン）。12月3日にはサン・カルロ劇場で《リッチャルドとゾライデ》を初演して大成功を収める。 [アーヘン列国会議。マルクス、グノー生]

1819年（27歳）

3月27日、サン・カルロ劇場で《エルミオーネ》を初演。4月24日、ヴェネツィアのサン・ベネデット劇場で旧作を転用した《エドゥアルドとクリスティーナ》を初演。10月24日、サン・カルロ劇場で新作《湖の女》を初演、12月26日にミラーノのスカラ座で《ピアンカとファッリエーロ》を初演。

[オッフェンバック生。ショーペンハウアー『意思と表象としての世界』刊]

1820年（28歳）

3月24日、ナポリのサン・フェルディナンド教会で《グローリア・ミサ》を初演。12月3日にはサン・カルロ劇場で《マオメット2世》を初演。 [ナポリで立憲革命。騒乱が各地に波及]

1821年（29歳）

2月24日、ローマのアポッロ劇場で《マティルデ・ディ・シャブラン》が初演される（稽古中にロッシーニ倒れ、バガニーニが指揮）。4月、ハイドン《天地創造》を指揮。カンタータ《感謝の歌》初演。 [ナポリ革命挫折。ナポレオン没。ヴェーバー《魔弾の射手》初演]

1822年（30歳）

2月16日、サン・カルロ劇場で《ゼルミーラ》を初演する。3月16日、ブリマ・ドンナのイザベッラ・コルブランとカステナーズで結婚。同月末、サン・カルロ劇場の主力歌手を率いてウィーンに赴き、4月13日よりケルトナートーア劇場で自作の連続上演を行って大成功を収める。ベートーヴェンを訪問。夏に声楽練習曲《ゴルゲッジとソルフェッジ》を作曲（1825年パリ刊）。冬にはメッテルニヒの求めでヴェローナ会議を称えるカンタータ《神聖同盟》《まことの尊敬》その他を作曲初演する。

1823年（31歳）

2月3日、フェニーチェ劇場で《セミラーミデ》を初演、これをもってイタリアでの活動に終止符を打つ。11月にパリを訪問して大歓迎を受け、12月にはロンドン入りしてジョージ4世に拝謁。 [スタンダード『ロッシェニ伝』刊（記載年1824）]

1824年（32歳）

ロンドンの王立劇場で行なわれたロッシェニ・シーズンで成功を収め、宮廷と社交界で声楽教師や伴奏者を務めて人気を博す。興行師の依頼で新作《イタリア王ウーゴ》の作曲を始めるが、未完に終わる。6月9日、ロンドンでカンタータ《パイロン卿の死によせるミューズの女神たちの嘆き》を初演。8月パリ到着。11月16日、フランス政府の要請でイタリア劇場の音楽・舞台監督に就任。妻コルブランとの不和始まる。

[ルイ18世没。シャルル10世即位。ベートーヴェン《交響曲第9番》初演]

1825年（33歳）

フランス王シャルル10世の戴冠を祝して《ランスへの旅》を作曲、6月19日パリのイタリア劇場で初演する。マイアベーア《エジプトの十字軍》のバリ上演に協力。

[フェルディナンド1世、ロシア皇帝アレクサンドル1世、サリエリ没]

1826年（34歳）

9月、ヴェーバーがロッシェニを訪問。同月25日、パリのオデオン座で《イヴァノエ》（ロッシェニ作品によるパステイッチョ・オペラ）初演。10月9日、パリのオペラ座（王立音楽アカデミー劇場）で《コリントスの包囲》（《マオメット2世》のフランス語改作）を初演、圧倒的成功を収める。 [ヴェーバー没]

1827年（35歳）

2月20日、ボローニャで母アンナが亡くなり、死を看取れなかったロッシェニは心に深い傷を負う。3月26日、パリのオペラ座で《モイーズ [モイーズとファラオン]》（《エジプトのモゼ》のフランス語改作）を初演、成功を収める。

[ベートーヴェン没。ユゴー『クロムウェル』ロマン派を宣言]

1828年（36歳）

8月20日、パリのオペラ座で《オーリー伯爵》が初演され、大成功を収める。パリに留まり、《ギョーム・テル》の作曲を続ける。 [シューベルト没]

1829年（37歳）

フランス政府との間に2年毎に新作オペラを発表する契約を結ぶ。8月3日、パリのオペラ座で《ギョーム・テル》を初演、聴衆の理解を得られなかったが、作曲家や評論家から絶賛される。シャルル10世よりレジオン・ドヌール大勲章を授与。同月妻と共にボローニャへ帰還。 [ギリシアの独立承認]

1830年（38歳）

7月、パリで七月革命が勃発。シャルル10世が退位し、前政府との間にロッシーニが結んだ契約（終身年金と向こう10年間の新作契約）が無効とされる。ロッシーニは単身パリに戻り、旧政府の役人を相手に終身年金の支払いを求めて交渉を開始する。 [七月革命。ルイ・フィリップ即位。ユゴー『エルナニ』初演]

1831年（39歳）

2月初め、友人の銀行家アグアドとスペイン旅行に旅立ち、フェルディナンド7世に拝謁。スペイン滞在中に、フェルナンデス・バレーラ神父から《スタバト・マーテル》の作曲を依頼され、非公開の約束で承諾する。パリに戻ったロッシーニは全10曲のうち6曲を完成するが、残りの作曲をタドリニに委ねる。ボローニャでロッシーニの父と不仲となったコルブランが、カステナーズで別居を始める。

[マッツィーニの青年イタリア党結成。ベッリーニ《夢遊病の女》《ノルマ》、マイアベーア《悪魔ロベール》初演]

1832年（40歳）

タドリーニ補筆の《スタバト・マーテル》完成。ロッシーニは後に妻とするオランプ・ベリシエと知り合い、ピアノ伴奏のカンタータ《ジョヴァンナ・ダルコ》を作曲して献呈する。
[ゲーテ没。ドニゼッティ《愛の妙薬》初演]

1833年 (41歳)

フランス政府との訴訟続く。ロッシーニはパリのサロン音楽家として人気を博し、サロン用に室内音楽作品を作曲。聖金曜日にマドリードで《スタバト・マーテル》の私的初演が行われる。
[ブラームス生。ミシュレ『フランス史』(第1~2巻)刊]

1834年 (42歳)

健康を害し、夏の間ボローニャとカステナーゾでの静養を経て、8月末パリに帰還。
[リヨン、パリなどで暴動発生]

1835年 (43歳)

パリでベッリーニ《清教徒》の上演に尽力し、9月にベッリーニが急死するとその音楽遺産の整理と遺族の経済的利益のために働く。それまでに書きためた歌曲と二重唱曲を全12曲のアルバムにまとめ、《音楽の夜会》と題して出版。同年末、裁判に勝訴して終身年金を得る。

[ベッリーニ没。サン=サーンス生。ドニゼッティ《ラマムアのルチア》初演]

1836年 (44歳)

金融資本家ロッチルド家の求めでフランクフルトを訪問。初めて汽車に乗り、恐怖を感じる。パリに戻るとイタリアへの帰国を実行に移し、11月ボローニャに帰還。

[マイアベーア《ユグノー教徒》初演]

1837年 (45歳)

オランプをボローニャに呼び、9月にコルブランと正式離婚すると同棲生活に入る。冬をオランプとミラーノで過ごし、フランツ・リストと交遊。

[バルリオーズ《レクイエム》初演]

1838年 (46歳)

1月、パリのイタリア劇場の火災で支配人セヴェリーニを亡くし、衝撃を受ける。憔悴の日々。

[ビゼー生]

1839年 (47歳)

4月28日、ボローニャ音楽学校の永久名誉校長就任を受諾。翌29日、父ジュゼッペ死去。健康を害したロッシーニは医師の勧めで夏をナボリのボジッリポ岬で過ごす。9月、ボローニャに戻り、音楽学校の改革に着手。

[ムソルグスキー生。スタンダール『バルムの僧院』刊]

1840年 (48歳)

健康を取り戻し、ボローニャ音楽学校の指導と改革に尽力。

[チャイコフスキー、ゾラ生。パガニーニ没]

1841年 (49歳)

タドリーニ補筆《スタバト・マーテル》の出版を拒否してみずから全曲を完成、その版權をパリの出版社トゥルプナに売却する。出版社オーラニエはトゥルプナを告訴するも、敗訴に終わる。

[ドヴォルザーク生]

1842年 (50歳)

1月7日、パリのイタリア劇場で《スタバト・マーテル》第2稿が初演される。続いてドニゼッティの指揮でイタリア初演(3月18日)とヴィーン初演(5月3日)も行なわれ、大成功を収める。4月、友人アグアドの死に衝撃を受ける。6月にプロイセン国王フリードリヒ・ヴィルヘルム4世から騎士に叙勲、ベルリン・アカデミー名誉会員にも推挙される。

[スタンダール、ケルビーニ没。マスネ生。ヴェルディ《ナブコドノゾル》初演]

1843年 (51歳)

5~7月、膀胱系疾患の手術のためオランプと共にパリに滞在。療養後の10月初旬、ボローニャに帰還して音楽学校の仕事に従事し、ボローニャ永住を決意する。

[グリーグ生。ヴァーグナー《さまよえるオランダ人》初演]

1844年 (52歳)

三つの宗教合唱曲《信仰・希望・慈愛》出版。《タツシ生誕300年のための合唱曲》作曲。

[ニーチェ生、ヴェルレーヌ生]

1845年 (53歳)

9月、前妻イザベッラ・コルブラン重態の報せにカステナーゾへ急行する。10月7日、コルブラン永眠。

[フォーレ生。ヴァーグナー《タンホイザー》初演]

1846年 (54歳)

3月、ベルギー科学芸術院名誉会員に推挙される。8月16日、オランプ・ベリシエと再婚。旧作を転用した《教皇ピオ9世への感謝の讃歌》《教皇ピオ9世を讃えるカンタータ》を作曲。

[リベラルな教皇ピオ9世即位。イタリアで民族解放運動が高揚]

1847年 (55歳)

1月1日、ローマで《教皇ピオ9世を讃えるカンタータ》初演。12月、パリのオペラ座でニデルマイエル《ロベール・ブリュス》(ロッシーニ作品によるパステッチョ・オペラ)初演。

[メンデルスゾーン没]

1848年 (56歳)

4月27日、ボローニャの自宅でデモの群衆から「ブルジョアの反動」と罵倒されてショックを受け、翌日オランプを連れてフィレンツェに逃れる。同月29日、愛国者バッシ神父が民衆を代表して謝罪を表明すると、ロッシーニはこれに応じて《ボローニャ市民守備隊に捧げる合唱曲》を作曲するが、ボローニャ帰還の意思を喪失する。

[二月革命の余波がヨーロッパ中に広がる。ドニゼッティ没。ピオ9世が解放運動から離脱。『共産党宣言』刊]

1849年 (57歳)

心の傷癒えることなく、ボローニャの住居を放棄したままフィレンツェに滞在。

[シヨパン没。イタリア各地に共和政成立するも敗北。ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世即位]

1850年 (58歳)

7月、《平和への讃歌》を作曲。9月、財産整理のためボローニャを訪れるが、護身のため警官同行と短銃携帯を市当局に求める。

[ルイ・フィリップ没、バルザック没。ヴァーグナー《ローエングリン》初演]

1851年 (59歳)

5月1日、オーストリア政府当局者の不意の訪問をめぐって友人たちから侮辱を受ける。政治的軋轢に嫌気がさしてフィレンツェ定住を決意し、その後ボローニャの資産をすべて売却する。

[ルイ・ナポレオンのクーデタ。ヴェルディ《リゴレット》初演。スポンティエーニ没]

1852年 (60歳)

ロッシーニの健康状態悪化。神経衰弱と精神錯乱の兆候が現れ、遺書を書いて自殺をほのめかす。

[ナポレオン3世即位によりフランス第二帝政開始]

1853年 (61歳)

病状悪化に伴い、フィレンツェで療養に専念。

[クリミア戦争始まる(~1856)。ヴェルディ《イル・トロヴァトーレ》《ラ・トラヴィアータ》初演]

1854年 (62歳)

不眠、神経衰弱と錯乱に陥る。オランプに伴われルッカの温泉地で療養するも効果なし。

[ヤナーチェク生]

1855年 (63歳)

イタリアでの治療に希望を失ったオランプはパリ行きを説得。4月26日、ロッシーニ夫妻フィレンツェを去り、5月25日にパリ到着。転地療養先のノルマンディー地方トルーヴィルでフェルディナント・ヒラーと対話を重ねる。9月、パリに帰還。

[ネルヴァル、キルケゴール没]

1856年 (64歳)

6月、ストラスブルを訪問して大歓迎を受ける。ヴィルトバートの湯治で健康を回復し、パシーに別荘を借りる。
[ハイネ没、シューマン没。フロベール『ボヴァリー夫人』刊]

1857年 (65歳)

4月15日、妻の献身的看護に感謝して歌曲集《慰めの音楽》をオランプに献呈する。[イタリア統一運動サルデーニャに結集]

1858年 (66歳)

9月18日、パリ市当局からパシーの約1万平方メートルの広大な土地を購入する。ショセ・ダンタン通り2番地のマンションに移転して「土曜の夕べ」を開始、著名人の来訪が相次ぐ。創作意欲の蘇ったロッシェニは後に《老いの過ち》としてまとめられる作品群の作曲を始める。[レオンカヴァッロ生、プッチーニ生]

1859年 (67歳)

3月10日、パシーに邸宅建設のための礎石を置く。ロッシェニが名誉委員長を務めるフランス政府委員会が公式ピッチを a=435 ヘルツとする答申を出す。[イタリア統一戦争始まる]

1860年 (68歳)

3月、ヴァーグナーがロッシェニを訪問して会談。モシェレス、ハンスリックのロッシェニ訪問。7月9日、パリ・オペラ座で《セミラミス》(《セミラーミデ》のフランス語版)初演。
[ヴォルフ、マラー生。ショーペンハウアー没]

1861年 (69歳)

春、ポーセジュールに竣工した別荘に移転。12月22日、《ティタンの歌》をパリ・オペラ座で初演。
[イタリア王国成立。《タンホイザー》パリ初上演]

1862年 (70歳)

健康状態の悪化始まる。《小ミサ・ソレムニス》作曲開始。
[ヴェルディ《運命の力》初演]

1863年 (71歳)

春、坐骨神経痛で苦しむ。8月、ナポレオン3世よりレジオン・ドヌール勲章、イタリア王ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世より聖マウリーツィオ・エ・ラッザロ勲章を授与される。《小ミサ・ソレムニス》完成。
[ドラクロワ没。マスカーニ生。ミル『功利主義』刊]

1864年 (72歳)

3月14日、《小ミサ・ソレムニス》の私的初演がピエ=ヴィル伯爵邸で行なわれ、出席者に深い感動を与える。5月21日、聖名祝日を記念する祝典がペーザロで行なわれ、ロッシェニの彫像が披露される。《マイアペーアのための葬送歌》作曲。
[マイアペーア没。R.シュトラウス生]

1865年 (73歳)

体調が良くなり、美食の喜びを取り戻す。
[ヴァーグナー《トリスタンとイゾルデ》初演]

1866年 (74歳)

3月、リストが「土曜の夕べ」で演奏。ローマ教皇ピオ9世に書簡を送り、教会における女性歌手禁止令の撤回を嘆願する。
[サティ、ブゾーニ生。ドストエフスキー『罪と罰』刊]

1867年 (75歳)

ピオ9世から女性歌手禁止撤回に関して否定的見解が示される。《小ミサ・ソレムニス》の管弦楽伴奏化に取り組む。パリ万国博覧会の求めで《ナポレオン3世とその勇敢なるフランス国民に捧げる讃歌》を作曲、7月1日に万博産業館にて皇帝の臨席で初演される。健康悪化が決定的となり、死の不安が頭をもたげる。
[ボードレール没。マルクス『資本論』(第1巻)刊]

1868年 (76歳)

2月10日、オペラ座で《ギョーム・テル》500回目の公演が行われる。ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世よりイタリア王冠大十字騎士爵に叙勲され、返礼に《イタリアの王冠》(バンダのた

めの行進曲)を作曲。健康状態のさらなる悪化により、「土曜の夕べ」は9月26日が最後となる。11月初めに直腸の手術が施されるも回復の見込みなく、死を待つ身となる。同月13日午後11時15分頃、永眠。同月21日正午、トリニテ教会で葬儀とミサが行われ、ペール・ラシェーズ墓地に埋葬される。
[明治維新。ボイト《メフィストフェレ》初演]

..... ..

1869年

2月28日、生前演奏を禁じていた管弦楽伴奏版《小ミサ・ソレムニス》がパリのイタリア劇場で初演される。

1878年

3月22日、妻オランプ・ペリシエ死去。ロッシェニの遺言により遺産はペーザロ市、フランス政府、ボローニャ音楽学校、さらに音楽教育施設と音楽家の養老院設立のために寄付される。

1887年

4月30日、ペール・ラシェーズ墓地のロッシェニの亡骸が掘り起こされ、フィレンツェへの移送が始まる。5月3日、フィレンツェのサンタ・クローチェ教会に再埋葬される。

1902年

6月13日、サンタ・クローチェ教会にてロッシェニの墓のモニュメントの序幕式が行われる。



サンタ・クローチェ教会のロッシェニの墓